

大田区人口推計(令和7年1月1日時点)の概要

令和6年4月に推計した将来人口を更新(令和53(2071年)まで)しました。

1 推計期間

2026から2071年

2 対象地域

区の全域、3つの地区に分割した地区別にそれぞれ推計値を公表します。大田区全域、地区別(大森地区・調布地区・蒲田地区)

(1)大森地区:大森東、大森西、入新井、馬込、池上、新井宿特別出張所の合計。

(2)調布地区:嶺町、田園調布、鶉の木、久が原、雪谷、千束特別出張所の合計。

(3)蒲田地区:糀谷、羽田、六郷、矢口、蒲田西、蒲田東特別出張所の合計。

3 推計人口

住民基本台帳人口を基にして推計を実施しています。

4 基準日

住民基本台帳人口(2025年1月1日時点)

5 推計手法:人口

将来人口の推計手法は、人口の変化を決定する値を自然増減(出生・死亡)と社会増減(転出入)の要因ごとに設定する「コーホート要因法」を用いています。

本推計では、基準日時点における男女それぞれの同年齢の集団(人口)をコーホートと呼びます。

6 推計の仮定(基本推計)

大田区では、年間で20年以上プラス(転入超過)であった社会増減が、2020年からのコロナ禍においてマイナス(転出超過)となりました。令和6年、令和7年は人口が回復しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による人口への影響がいつまで続くのか不明であることから、過去6年間の人口動向を踏まえて推計を更新しました。過去6年間の動向のうち、3年間は人口が増加、3年間はコロナ禍による人口減少となっています。

7 推計結果の概要

(1)2020年代半ばまでは転出超過から転入超過へ徐々に移行。

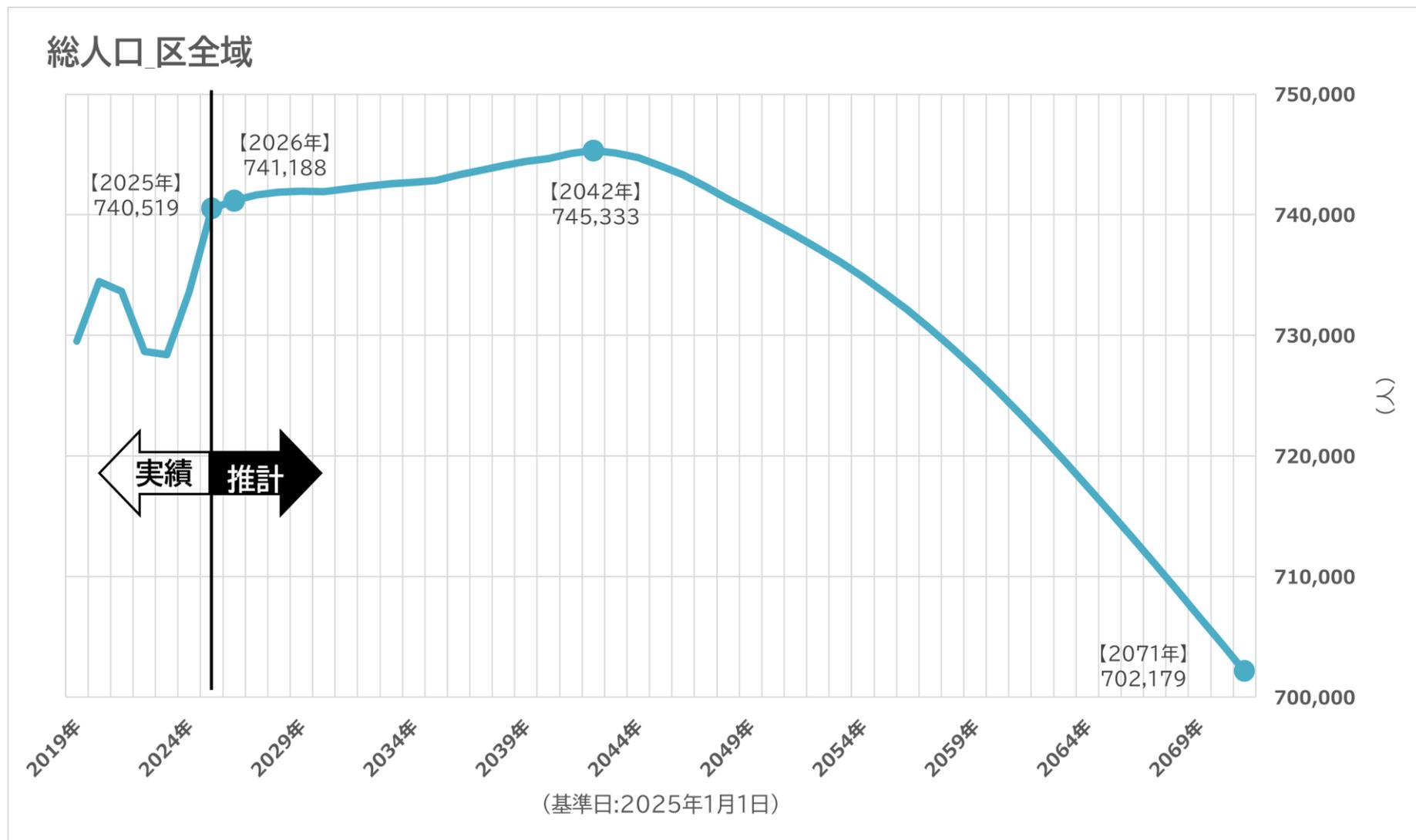
(2)2020年代後半から2040年代前半まではほぼ横ばいではあるが、転入超過により人口が緩やかに増加。

(3)2040年代半ば以降は少子多死による自然減の拡大により人口が緩やかに減少。

(4)長期的に70万人の人口規模を維持。

■2071年までの大田区の総人口

2026年以降増加の見込みであり、2042年に745,333人となる。これをピークに減少に転じ、2071年には702,179人となる見込みである。

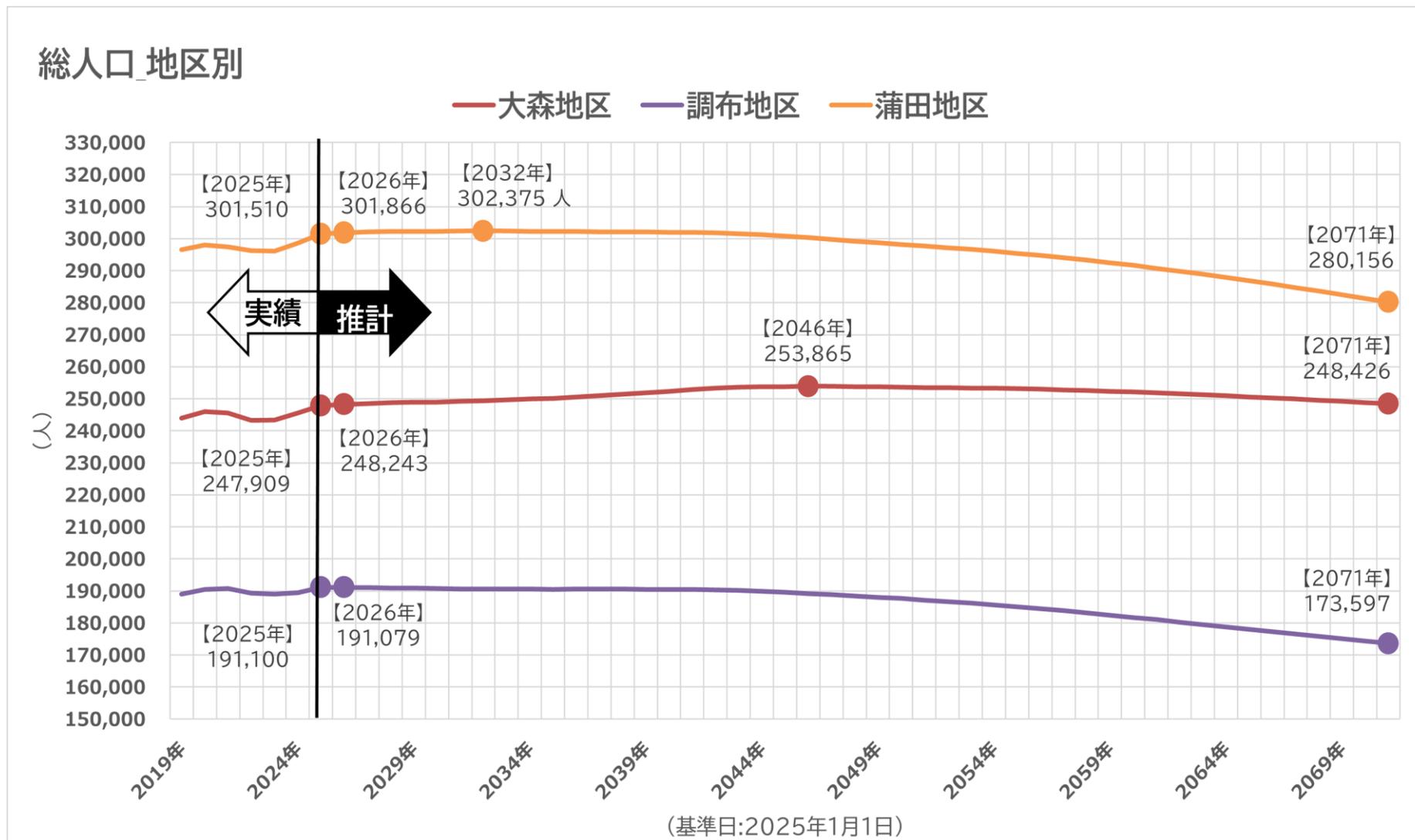


■2071年までの大田区の地区別総人口

大森地区は、若干の増減がありながらもほぼ横ばいに推移し、2071年に248,426人となる見込みである。

調布地区は、微減を続け、2071年に173,597人となる見込みである。

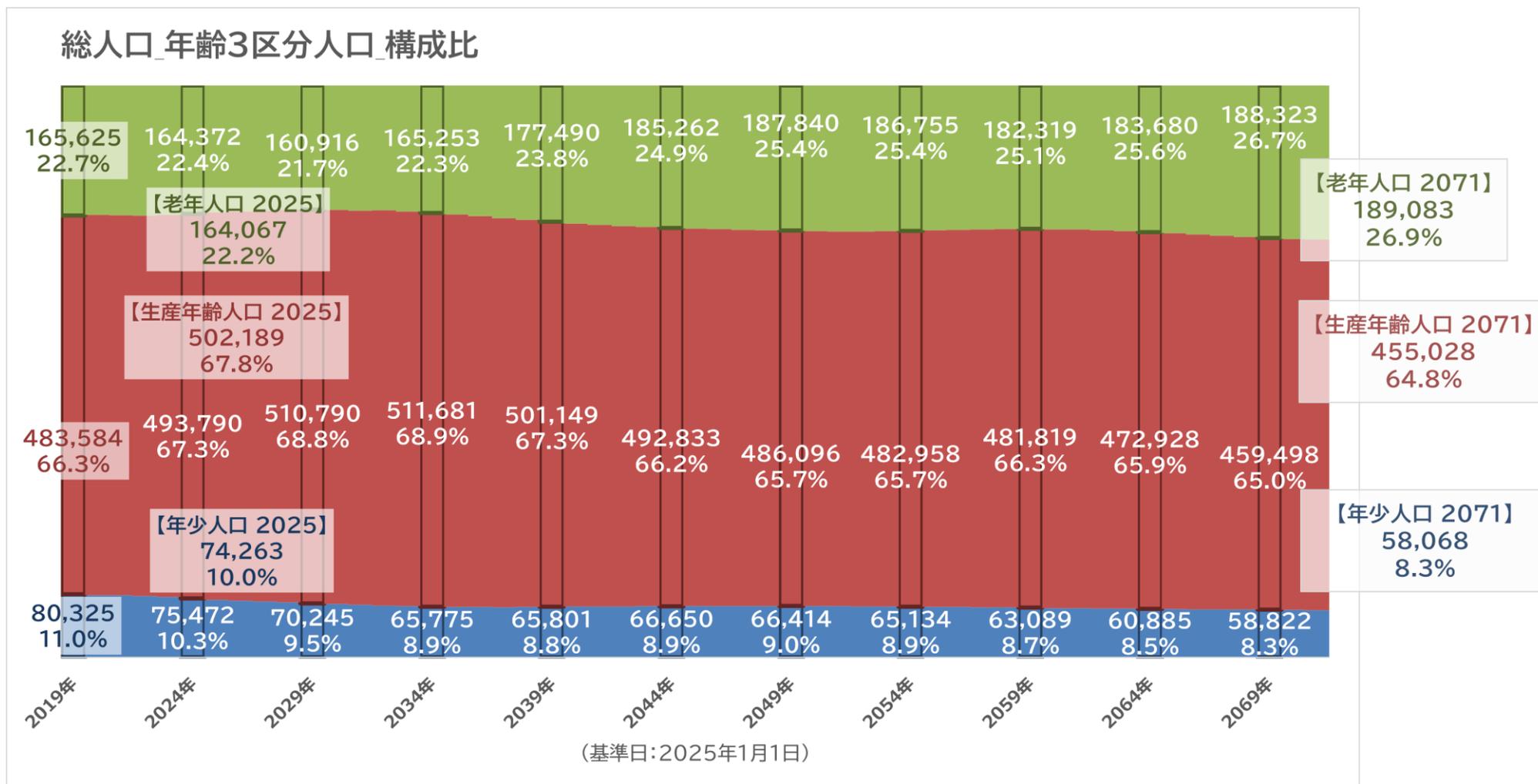
蒲田地区は、2026年以降微増し2032年に302,375人となるが、これをピークに減少し、2071年に280,156人となる見込みである。



■2071年までの大田区の年齢3区分人口・構成比

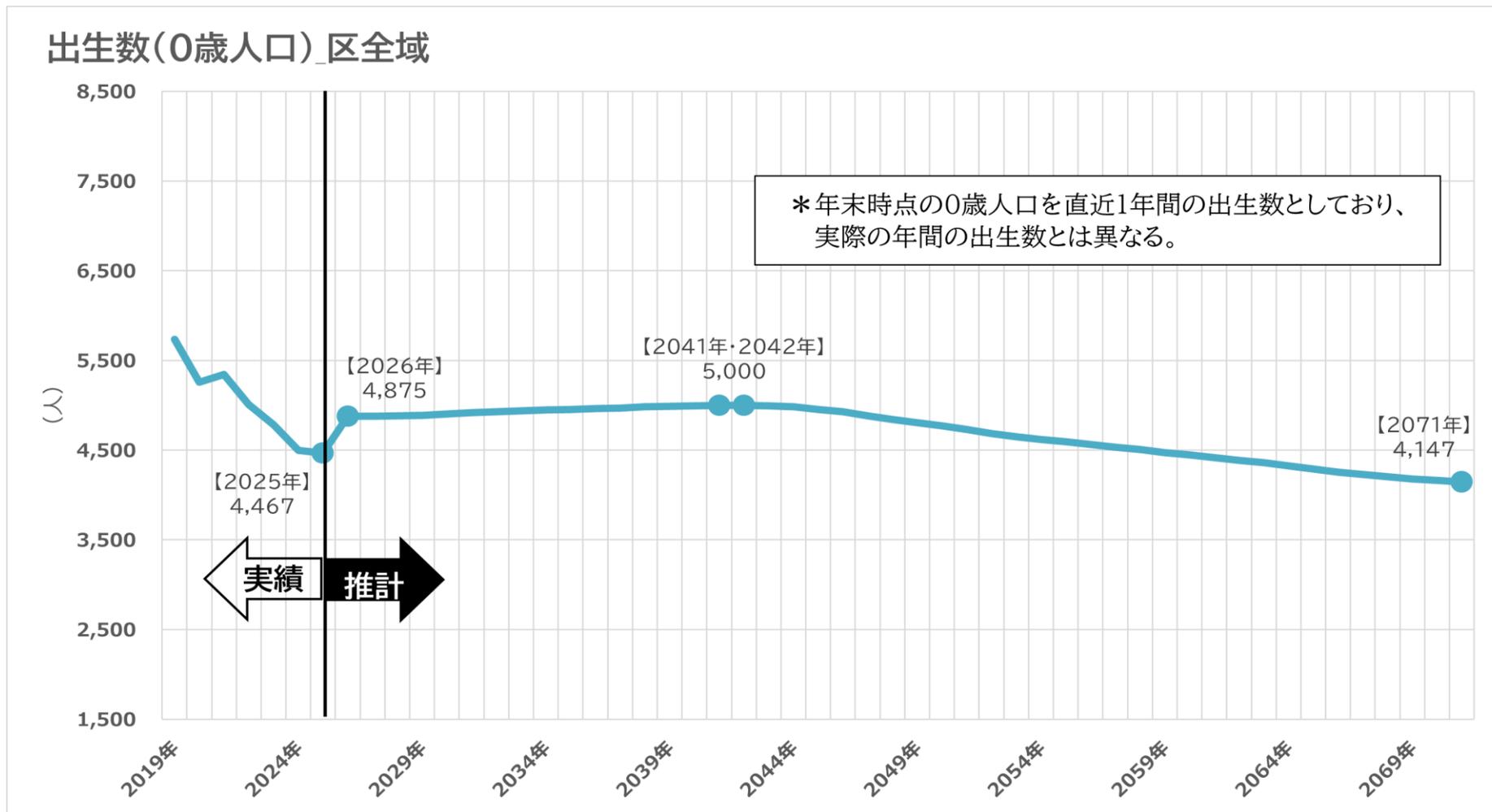
年齢3区分人口の推移をみると、年少人口は2026年以降減少を続け、2071年に58,068人となる見込みである。
 生産年齢人口は2026年以降、2031年頃まで増加するが、以降減少し、2071年に455,028人となる見込みである。
 老年人口は2026年以降、2051年頃まで増加し、その後一時減少するが再度増加となり、2071年に189,083人となる見込みである。

年齢3区分構成比をみると、2025年に比べ、2071年に年少人口は1.7ポイントの低下、生産年齢人口は3.0ポイントの低下、老年人口は4.9ポイントの上昇となっている。



■2071年までの大田区の0歳児人口(出生数)

2026年以降増加の見込みであり、2041年・2042年に5,000人となる。これをピークに減少に転じ、2071年には4,147人となる見込みである。



■2071年までの大田区の地区別0歳児人口(出生数)

大森地区は、2026年以降緩やかな増加傾向を示すが、2043年をピークにその後減少に転じ、2071年には1,620人となる見込みである。

調布地区は、2026年から2043年まで緩やかに増加するが、その後減少傾向に入り、2071年には1,052人となる見込みである。

蒲田地区は、2026年以降緩やかな増加傾向を示すが、2034年に1,911人でピークを迎える。その後緩やかな減少傾向が続き、2071年には1,475人となる見込みである。

